

JHC 主催

ホノルル心臓リハビリテーションワークショップ報告書

筑波大学 体育専門学群 スポーツ医学研究室
小崎 恵生

会期：2013年3月2日～3月7日

会場：ハワイ州ホノルル

参加者：10名

① 参加しようと思ったきっかけは？

2012年5月につくば市で開催された、第7回茨城心臓大血管リハビリテーション・運動生理研究会で佐藤真治先生（大阪産業大学）のご講演を聴き、Honolulu心臓リハビリワークショップに大変興味をもちました。まだ学生ということもあり正直、不安の方が大きかったのですが、出発前から佐藤先生や旅行代理店の方がご丁寧にアドバイスをしてくださり、大変助かりました。また、現地についてからも参加者の方にいろいろと助けていただき、本当に充実したワークショップになりました。

② 参加するまでにこんな準備をしました

Q1：日程はどのように調整しましたか？

学校の期末試験とかぶってしまっていたので、担当の先生に理由を話して事前に課題を設定してもらい、帰国後に提出するという形で対応してもらいました。

Q2：事前学習や下調べはしましたか？

ワークショップで使う教材をあらかじめ、ファイルで送っていただいていたので、その内容を読んで理解して自分の意見をまとめておくような準備をしました。また、医療英会話については、メールによる事前レクチャーがありましたので、現地での学びがとても効率的でした。

Q3：参加は出張扱いでしたか？

学生での参加でしたので、自由参加です。

Q4：参加費用や交通費用は自費でしたか？それともご施設からの支給でしたか？

参加費用、交通費用ともに自由参加のため、自費でした。

Q5：その他にこんな準備をしました！ということがあればご紹介ください。

同室だった北光記念病院の大艸先生がポケット Wi-Fi を持参されていて、とても便利でした。Wi-Fi の回線で LINE などのアプリを使用して連絡を取り合えば、無

料ですし海外でも安心して行動できると思います。また、早朝にランニングなどをすると大変気持ちがいいので、是非ランニングシューズを持参されることをお勧めします。

③ My タイムスケジュール

	月日	都市名	AM/PM	日 程
1	3/2(土)	関西空港	PM	関西国際空港集合
		ホノルル着	AM	ホノルル空港到着
				アンバサダーホテル ロビー集合 ウエルカムパーティー：ホテルマリオット・ビーチバー
2	3/3(日)	ワイキキ	AM	ラニカイビーチツアー
			PM	ワークショップ①「心疾患患者さんをその気にさせるアプローチ」 コーディネイター：佐藤真治先生（大阪産業大学大学）
3	3/4(月)	ワイキキ	AM	Dr. 齋藤の英語で行なう医療コミュニケーション① モーニングレクチャー、ワイキキゲートホテル会議室
			PM	ワークショップ②「米国の医療マネジメント事情」 コーディネイター：木全智恵子さん（Hawaii Pacific）
				ワークショップ③「海外の学会で質問してみよう！」 コーディネイター：佐藤真治先生（大阪産業大学）
4	3/5(火)	ワイキキ	AM	早朝ランニング（ダイヤモンドヘッド）
				Dr. 齋藤の英語で行なう医療コミュニケーション② モーニングレクチャー、ワイキキゲートホテル会議室
			PM	ストラウブ病院見学
				ワークショップ④「ストラウブ病院スタッフにインタビュー」 コーディネイター：木全智恵子さん（Hawaii Pacific） 佐藤真治先生（大阪産業大学）
5	3/6(水)	ホノルル発	AM	ホテルチェックアウト後、ハワイ大学でお土産購入 出国審査後、関西国際空港へ向け出発。
				6

④ ワークショップ及び、病院見学について

まず、ワークショップの感想について報告したいと思います。

1. 「心疾患患者さんをその気にさせるアプローチ」では、佐藤真治先生（大阪産業大学）を中心に、心疾患患者さんをいかにしてその気にさせるかについて、グループに分かれて話合いました。そこで挙げられた意見をいくつか紹介すると、「褒める」「効果の可視化（具体的なデータの提示）」「第3者の~~本~~利益の提示」でした。特に印象に残っていることは、臨床心理士の日高なぎさ先生（大阪産業大学）が心理の面から、「会話を褒めて終わる」ということの重要性を言われていたことです。やはり、人をその気にさせる上で、「褒める」というものは大変重要で、その「褒め方」を工夫していくことがその気にさせる第一歩だと感じました。
2. 「米国の医療マネジメント事情」では、木全智恵子先生（Hawaii Pacific）から日本と米国の医療事情の違いについてお話をさせていただきました。その中で特に印象に残っていることは、「システムに合うように人を改良していくのではなく、人に合うようにシステムを改良していく」ということです。この考え方はアメリカ特有なもので、とても合理的な考え方だと思いました。また、米国のチーム医療についてもお話がありました。米国ではチームの質を向上させていく上で重要となってくるのは、いかに第3者的な視点で評価を行える専門家に加わっているかどうかでした。日本にはまだまだこのような考え方は浸透していないように感じますが、今後のチーム医療を考えた際にはとても重要な部分だと強く感じました。
3. 「海外の学会で発表してみよう！」では、佐藤真治先生（大阪産業大学）を中心に、事前に配布された英語論文をもとにグループで討論しました。その結果、海外の学会で発表する際のポイントは、「偶然（chance）」「偏り（bias）」「交絡（confound）」がないこと、すなわち自分の研究の信頼性（validity）をいかに強調できるかということでした。自分自身、まだ学会での発表の経験はないのですが、発表する前からこのような貴重な情報を聞いたことは今後にとっても生かせると思っています。
4. 「米国の心臓リハビリスタッフにインタビュー」では、ストラブ病院の看護部長の方から病院の沿革について説明があり、その後、病院の心臓リハビリコーディネーターの Lin さんに我々から英語でインタビューしました。病院スタッフの方のお話は専門用語も多く、学生の自分にとっては正直、お話を理解するのも質問するのもとても難しかったです。しかし、片言の英語で質問をすると、病院スタッフの方はとても真剣に聞いてくださり、ご丁寧に返答していただきました。海外に行って現地の病院で学問的な質問ができるという体験は自分にとってとても貴重で、大きな刺激となりました。そして、将来は英語で意見を交換できるようになりたいというモチベーションへとつながったように思います。

5. 次に、「英語で行う医療コミュニケーション」のワークショップの報告をしたいと思います。振り返ってみると、とにかく楽しく、あっという間に時間が過ぎていたように思います。はじめ、日本語の早口言葉から始まり、アルファベットの発音へとつながり、最後には英文の発音へとつながっていきました。自分が想像していた英語学習とはかけ離れていて、とても驚いた部分はたくさんありましたが、一つ一つのレクチャーがとてもユニークでまるで英語を勉強するというよりも英語の本質に触れるといった感じでした。その中でも、日本と米国の文化的な背景の違いを理解した上で発音・発声を意識することが重要であると感じました。今までの自らの英語学習を振り返ってみると、読んだり聞いたりが多かったのですが、今回のレクチャーを受けて、発音・発声の方にも力を入れていこうと思っています。

⑤ 感想及び学んだこと

今回のワークショップを通して特に印象に残っている3つのことを報告したいと思います。まず1つ目は、ハワイという場所の素晴らしさです。自分自身、今回が初めてのハワイだったのですが、ハワイの海、山、町並み、食事のどれをとっても想像をはるかに超える素晴らしさで、勉強以外の部分もとても充実できたように思います。特に早朝に見た、ダイヤモンドヘッドでの日の出は、熱い気持ちと勇気を与えてくれるように思います。

2つ目は、佐藤真治先生をはじめ、木全先生、齋藤先生、ストラブ病院のスタッフの方々がとてもユニークで、学びの中に楽しさが有り、本当に多くのことを吸収できたワークショップだったということです。日本とハワイという異なった土地で、医療または健康というテーマのもと、第一線でお仕事をされているレクチャー陣の先生方に、それぞれの専門領域のお話をわかりやすく解説していただき、それを聞いたことは大変貴重な体験で、今後の自らの方向性を決めていく上でとても有意義なものになったと思います。

最後に3つ目は、参加者の方々のモチベーションがとても高く、ご一緒に勉強やお話ができ、とても刺激をもらえたということです。職種も年齢も性別もばらばらな方々が、それぞれのバックグラウンドのもと、1つのテーマについて考え、意見を交換するという今回のワークショップは、とにかく毎日の一瞬一瞬が学びであったように感じます。また、それらの学びを通して、多職種間の連携と相互理解というものが、いかに重要であるかということが分かりました。1人の患者さんをチームで支える、文字通り「チーム医療」です。しかし、そのチームの中でお互いがお互いのことを理解し、尊重し合っているかどうかで、チーム医療の質というものは、大きく変わってくるように思います。自分はまだ、これから専門性を習得していく立場ではありますが、習得していく過程においても、常に広い視野を持ち、多くのことを吸収していけたらと思います。

以上3つの印象に残ったことを挙げました。これら3つに共通して言えることは、とにかく今回のワークショップは毎日が楽しかったということです。楽しく学び、楽しく会話し、楽しく遊び、本当に充実した日々でした。このような大変貴重な経験が出来たのも、全ては、素晴らしい場所、先生・スタッフの方、参加者の方に恵まれた結果だと思えます。本当にありがとうございました。

ワークショップ風景

